

# 1 ふるさとの自然

## 舞鶴の気候

本市は、日本海側気候の中でも山陰区に属しているため、春は乾燥した南寄りの風が吹きおろすフェーン現象が起りやすく、夏はおおむね高温多湿で、晴天の日が続きます。冬は北西の季節風が吹き、雨や雪の日が多くなり、最近10カ年の年間降水量は、平均1,895ミリとなっています。

## 海

### 若狭湾と海流

東は越前岬から西は丹後半島先端の経ヶ岬に至る若狭湾は、日本海沿岸では最大の湾であり、屈曲に富んだリアス式の複雑な海岸地形が発達しています。

若狭湾の沖合には対馬暖流が東流し、越前岬あたりで地形の影響のため、北東に向きを変えます。また、沖合の冷水域・暖水域の移動に伴い湾口付近の流速が変動するので、湾内の水の動きは一定していません。このように当地方の海岸地形と海況は、きわめて複雑な様相をみせているのです。

### 若狭湾国定公園

若狭湾国定公園は、昭和30年6月に国立公園に準ずる優れた自然の風景地として指定されました。平成19年8月、丹後天橋立大江山国定公園の制定にともない、区域が見直されました。京都府と福井県にまたがり、面積は19,194ヘクタール（うち、舞鶴市分3,738ヘクタール）を占め、“比較的鳥数の少ない樹枝状海岸”として分類されています。

### 魚介類・鳥類の生息

魚類は若狭湾周辺に、400種余りのものが知られており、最近の漁獲量を魚種別にみると、その内訳（最近5年）は、イワシ・アジ・サワラ・ブリ（ハマチ）・イカなどが多くなっ

ています。

貝類は、世界中に約24万種生息していると言われていますが、日本では約8,000種が確認され、舞鶴湾では478種類が報告されています。湾内部は粘土質のごく細かい泥地になっていて、強度内湾性の貝類が生息しています。種類は、示準貝類のシズクガイ（二枚貝）とマメウラシマガイ（巻貝）が最も多く、全体の4割強を占めています。

鳥類は、冠島にオオミズナギドリ、沓島にウミネコやヒメクロウミツバメ、カンムリウミスズメなどが繁殖し、市内全般に海鳥が多く見られます。

### 神崎海岸

本市沿岸も大部分は、リアス式海岸のため砂浜が発達せず、海岸植物の群落は余り見られませんが、神崎海岸には由良川の河口から東西に伸びた長い砂浜があります。ここには、ハマニンニク・コウボウムギ・ハマニガナ・ハマエンドウ・ハマボウフウ・ハマヒルガオ・トベラ・ハマゴウなど海浜植物がのびのびと生育しており、特に北地植物であるハマナス（バラ科）は、この付近が南限に近く、見事な群生が見られます。

### 冠島

この島は、大正13年に“オオミズナギドリ繁殖地”として国の天然記念物に指定され、現在約20万羽が生息しています。オオミズナギドリは渡り鳥で、冬は南方のフィリピンで越冬し、春になると繁殖のため冠島に飛来します。夏には卵を産み、11月には南方へ飛び立ちます。冠島での生活は、日中は洋上で過ごし夜には巣のある島へ帰ってきます。飛び方は特徴があり、110cmの大きな翼を利用して海面近くをハングライダーのように飛びます。また、他の野鳥も90種余りが観察されており、渡り鳥の中継地となっています。昆虫も豊富で、ニッポンモモボトコバネカミキリやカンムリセスジゲンゴロウなどは、ここ

の標本で新種とされました。

また、対馬暖流の影響をうけ、常緑照葉樹が多く、モチノキ・タブノキ・スダジイ・シロダモ・ヤブツバキ・ヒロハノアオキ・イヌマキ・ハマナデシコなどとともに、暖流により運ばれてきたと思われるキノクニスゲ（キシユウスゲ）などがあります。

## 山

### 市内の林相

原生林やスダジイの純林はきわめて少なく、市内では大浦半島の一部に残っています。成生・田井地区では、魚付林として大切に保護されており、成生岬には日本最大級のスダジイがあります。

### 青葉山

青葉山は標高 699m の秀峰で、白山火山系の火山です。大山・氷ノ山ともに、山陰地方における高山植物の三大宝庫の一つに数えられ、若狭富士とも呼ばれています。

また、由良ヶ岳・弥仙山とともに丹後の三山としても親しまれており、東北地方の高山へ行かないと見られないヒモカツラ・エゾノヒメクラマゴケ、また現在のところ青葉山のみで生育が確認されているオオキンレイカなど、数多くの高山性の植物が生育しています。このオオキンレイカは、1929年に植物学者竹内敬によって発見され、牧野富太郎博士が命名したものです。（多年草で高さ 30～60cm。花は鮮黄色で 7月下旬～8月開花）

青葉山は、南方系植物と北方系植物との接点であり、植物の種類が豊富で植物分布上近畿でも特異な山として注目されています。また、若狭湾地帯唯一の、植物の垂直分布が見られます。

### 動物・昆虫の生息

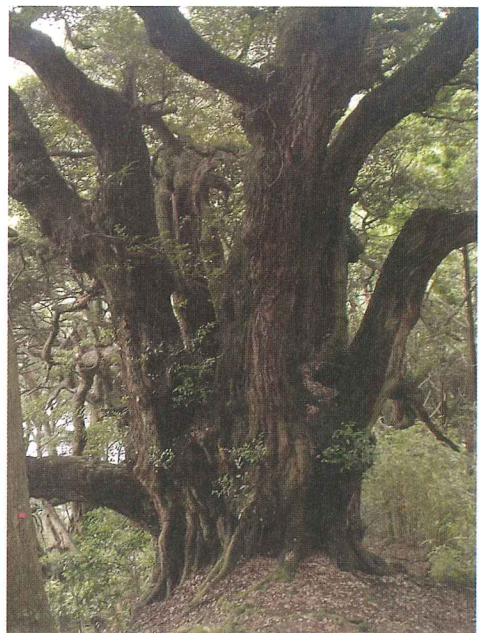
哺乳類では、ニホンカモシカ（特別天然記念物）やツキノワグマ（絶滅危惧種）が生息し、ニホンザル・ホンダタヌキ・ニホンシカ・

ニホンイノシシ・ホンドキツネが見られます。爬虫類はアオダイショウ・シマヘビ・ニホンマムシなどが生息しています。清流には、オオサンショウウオ（特別天然記念物）やモリアオガエルの姿も見られます。そのほか、日本の国蝶であるオオムラサキをはじめ、ギフチョウの美しい生態も観察できます。タカチホヘビなどの希少種や絶滅危惧種も生息しています。

## 川

由良川は、福井・滋賀両県に境を接した南丹市美山町に源を発する、全長約 146km の府下最大の河川です。現在は日本海へ流れ込んでいますが、今から数十万年前は瀬戸内海側へ注いでいました。

由良川下流域にあたる福知山市から舞鶴市にかけての地域は、谷幅も狭くなり勾配もゆるやかなため、昔から幾度となく洪水に見舞われてきました。しかし、ここに住む人々は度々の災禍にも耐えて力強く生き抜いてきたのです。由良川下流域の遺跡群（桑飼上遺跡・桑飼下遺跡・志高遺跡・大川遺跡・八雲遺跡）の存在がそのことを如実に示しています。



成生岬のスダジイ巨木